

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 8 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370826

研究課題名(和文) 文献・戦跡・遺物の総合的分析に基づくモンゴル - 宋戦争の研究

研究課題名(英文) A Study on the Mongol - Song War: A Comprehensive Analysis of the Historical Documents, Battle Sites, and Relics

研究代表者

船田 善之 (FUNADA, Yoshiyuki)

広島大学・文学研究科・准教授

研究者番号：50404041

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、文献・戦跡・遺物の総合的分析を通じて、モンゴル - 宋戦争(1235～1276年)を考察した。具体的には、モンゴル - 宋戦争に求められた人材、この戦争を通じて浮上する軍官の存在と彼らが果たした役割、彼らが宋併合後に与えられた任務や新たに構築した人的ネットワークを検討した。そして、戦争の現場における具体的な交戦・進軍過程、後方における補給や水軍の訓練の状況を解明した。また、このような軍官層が、この戦争によって生じた歴史変動や、宋 - モンゴル移行期の南北統合において重要な役割を果たしていたことが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This research project considered the Mongol - Song war (1235-1276) through a comprehensive analysis of the historical documents, battle sites, and relics. It examined the human resources the Mongol Empire demanded, the military commanders who were promoted through the war, their tasks during and after the war, and the connections they newly constructed afterwards. By doing so, these investigations clarified the process of the battles and invasions, logistic supports, and the situation of the naval trainings and drills. The results of this research led to the conclusion that the commanders engaged in the war had played important roles not only in historical changes through the war but also in the unification of the North and South China during the Song - Mongol transition.

研究分野：アジア史

キーワード：モンゴル帝国 元 宋 戦争史 交通史 秦嶺 漢水 淮河

## 1. 研究開始当初の背景

欧米の中央ユーラシア学界や日本のモンゴル帝国史研究において、13～14世紀の「モンゴル時代」が世界史における一つの大きな分岐点であり変革期であったことは共通認識となりつつある。そして、モンゴル帝国史研究においては新たな知見が陸続と提出されており、その歴史像は大きく変わってきた。しかしながら、例えば、日本史、ヨーロッパ史、中国史と比較すると、モンゴル帝国史の研究者の絶対数は極めて少なく、少数の研究者が政治史・制度史・社会史・文化史・史料学という限られた分野において研究を進めているというのが実情である。

1990年以降の国内外の研究状況を俯瞰すれば、モンゴル統治層の活動、宗教政策、地方官制、知識人の動向と地域社会、東アジアないしユーラシア規模での文化交流、歴史書・石刻・文書など史料研究に、多くの研究資源が投下され、これら領域におけるわれわれの知見は格段に増加したと総括できる。

他方で、ユーラシアに「モンゴル時代」をもたらしたモンゴルの軍事拡大＝戦争については、いわゆる軍事制度研究、あるいは政治史・事件史の一部として取り上げる研究に止まり、近年ではそれほど注目されていない分野といえる。とりわけ、モンゴル帝国が遊牧国家から陸と海を制圧する世界帝国へと変貌を遂げた(杉山正明『大モンゴルの世界：陸と海の巨大帝国』角川書店、1992年など)契機として位置づけられるモンゴル - 宋戦争については、杉山正明の画期的な研究(杉山正明「クビライ政権と東方三王家：鄂州の役前後再論」『東方学報』京都54、1982年)を除くと、その知見は必ずしも多くない。モンゴルの遊牧軍団の戦略・戦術については、近年、Timothy Mayによって*The Mongol Art of War* (Westholme Publishing, LLC, 2007) が出版されているが、モンゴル - 宋戦争はその対象としていない。

モンゴル - 宋戦争については、むしろ宋代史の研究者が多く従事してきたテーマといってよい(陳世松ほか『宋元戦争史』四川省社会科学院出版社、1988年；李天鳴『宋元戦争史』全四冊、食貨出版社、1988年；胡昭曦主編『宋蒙(元)関係史』四川大学出版社、1992年)。中でも、李天鳴の大著は、文献史料を博搜し、詳細な地図を数多く作成した上で、双方の戦略を考察し、モンゴルが勝利して宋が敗北した原因を分析した重要な成果である。ただし、これらはあくまでも宋代史・中

国史の立場から行われた研究であり、モンゴル帝国に対するアプローチは十分と言いがたい。

以上から、モンゴル帝国の軍事拡大の最終段階としてのモンゴル - 宋戦争と南北「中国」の統合や海域世界への進出との関連を、モンゴル帝国史の立場から考察する意義は大きいといえることができる。

## 2. 研究の目的

本研究は、モンゴル - 宋戦争を考察の対象とし、以下の課題を設定した。第一に、モンゴル軍の進軍ルートとモンゴル軍・宋軍の軍事拠点や交戦地点を空間的に把握する。とくに、モンケ時代の遠征(1258～1259年)におけるモンケ率いる本軍とクビライ率いる東路軍、及びクビライ時代の遠征(1268～1276年)におけるアジュ・劉整・史天沢・バヤン等が率いる本軍を検討の中心に置く。

第二に、モンゴル - 宋戦争において、モンゴル政権がどのような人材を新たに必要としたのか、新たに抜擢された軍官・軍人がどのような役割を担ったのかという問題を課題として設定する。とくに、モンゴル - 戦争におけるモンゴル軍の兵站補給、及び水軍の編成・訓練の過程や、それらを支えた人材に焦点を当てる。

第三に、モンゴル - 宋戦争を、その後の海域世界への進出まで含めたモンゴル帝国史・ユーラシア世界史の展開に位置づけるため、モンゴル - 宋戦争に従事した軍官・軍人・軍団の戦後における動向を考察する。

第四に、モンゴル帝国の宋併合による歴史変動や、帝国による南北中国の統合の実態を解明するため、モンゴル - 宋戦争とそれに関与した人びとが、これらの過程で果たした役割を検討する。

以上を通じて、クビライ以降のモンゴル帝国にとって最大規模かつ最重要であったモンゴル - 宋戦争を、モンゴル時代史、さらにはユーラシア史の中に位置づけ直すことを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究のディシプリンと方法は歴史学であり、その基礎は歴史文献の解読・分析に置かれる。基本となる典籍史料(史書・政書・文集)のほか、墓誌・神道碑など石刻史料を

積極的に活用する。石刻史料については、地方志・金石書所収の録文、近年公刊が進んでいる資料集に加え、研究代表者がこれまでの調査研究で収集した史料を活用するとともに、中国・フランスの研究機関に所蔵される史料、あるいは史跡などに現存する史料の調査を行う。

具体的な内容としては、電子史料や先行研究も活用・参照しつつ、典籍史料、資料集、考古学の学術雑誌及び石刻史料から、モンゴル - 宋戦争に関わった人物の伝記史料と進軍ルート・戦跡に関連する情報を収集・整理する。

これらのテキストの分析を精緻化する重要な手法として、戦争に関する史跡・景観のフィールド調査を行う。これらは、モンゴル - 宋戦争の歴史地理的な情報を立体的に把握し、それぞれの進軍ルートや軍事拠点の意義を明確にすることを目的とするものである。調査地域については、モンゴル・宋対峙期の境界地帯であった秦嶺・淮河ラインのうち、南北交通の結節点のエリア（中国陝西省宝鶏・漢中、河南省南陽、安徽省滁州、江蘇省淮安）及び両軍の交戦地点かつ宋の山城が点在するエリア（四川省瀘州・南充及び重慶）を選定する。宋が築いた軍事拠点としての山城や、水陸の交通路、河川・運河の水系と水運交通の史跡を中心に調査を行う。加えて、各地の博物館などに所蔵される当該時代の文化財や遺物の調査を行う。

そして、フィールド調査を通じて得られた地勢・景観の情報を踏まえ、文献に記載される、モンゴル軍の重要な経由地点、モンゴル軍・宋軍の交戦地点・軍事拠点について、先行研究が比定している箇所も含めて検証する。経費・日程の制約により、調査地点が限定されるため、必要に応じて、これまでの調査研究で得られた情報や、インターネット上で公開されている衛星画像や写真データを併用する。

以上を通じて収集した史資料のデータを分析することにより、モンゴル - 宋戦争の戦争準備の過程とその歴史的背景、双方の拠点構築と進軍ルート、交戦状況を考察する。

なお、これらの調査に際しては、陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院、西安碑林博物館、重慶市合川区世界遺産申請委員会、釣魚城管理局、西華師範大学歴史文化学院・四川古城堡文化研究中心、中国政法大学、フランス国立図書館、浙江工商大学や中国各地の博物館・文物管理处・文物単位の研究員・職員の協力と援助を得た。ここに特記

して謝意を表したい。

#### 4. 研究成果

- (1) まず、編纂史料や石刻史料に現れる、モンゴル軍の経由地点、モンゴル軍・宋軍の交戦地点・軍事拠点について、重要な地点を抽出し、文献史料の記述・描写及び先行研究の情報、考古学研究者の成果、フィールド調査で得られた知見を総合して、その検証・同定を行い、インターネットで公開されている衛星写真にマッピングした。この作業を踏まえた初歩的な成果として、国際会議において「蒙宋襄樊包圍戦与其軍事拠点」と題する報告を行った。ただし、技術的な課題もあり、発展的な分析は今後の課題として残されている。
- (2) 次に、従来知られていた編纂史料に加え、神道碑・墓誌銘など新出石刻史料を活用することにより、よりミクロなレベルでモンゴル - 宋戦争の実態を検討した。漢語史料は、戦争に関して詳細な記述は残さない傾向にあるが、モンゴル - 宋戦争に従軍した軍官・兵士の神道碑・墓誌銘を丹念に洗い出すことにより、その限界の克服を試みた。具体的な史料の分析によって、モンゴル - 宋戦争に求められた人材、この戦争を通じて浮上する軍官の存在と彼らが果たした役割を検討した。以上を通じて、戦争の現場における具体的な交戦・進軍過程、後方における補給や水軍の訓練の状況が解明された。また、彼らが宋併合後に与えられた任務や新たに構築した人的ネットワークを分析することにより、このような軍官層が、この戦争によって生じた歴史変動や、宋 - モンゴル移行期の南北統合において重要な役割を果たしていたことが明らかとなった。これらの成果は、論文「孟津河渡司から沿海万戸府へ：ある水軍指揮官の履歴からみたモンゴル帝国の水運と戦争」として公刊した。その後、さらに議論を発展させ、国際会議において、“New Linkages beyond North and South China Boundary during the Jurchen / Song - Mongol Transition: The Mongol - Song War, Emerging Military Commanders, and Bridges”及び“The Mongol Impact, Emerging Military Officers, and New Linkages

beyond the Boundary between the North and the South China”とそれぞれ題する報告を行った。これらの内容については、英文論文としてまとめ、海外で刊行予定の論文集に寄稿した（刊行時期未定）。

- (3) さらに、モンゴル - 宋戦争をモンゴル帝国の対外戦略、ユーラシア史に位置づける作業を行った。クビライの対外政策は、オゲデイ以来の政策を継承したものであったが、クビライの正統性の主張にも大きく影響されていたことを議論した。また、モンゴル - 宋戦争に、一つの戦争の経験と成果が次の戦争に生かされ続けるというモンゴル帝国の戦争の特質と、戦争を継続・再生産せざるを得ない軍事拡大中の帝国の本質を見いだすことができた。その内容は部分的に、講演「蒙古帝國的な世界戦略と軍事戦略」「モンゴル帝国はなぜ農耕地帯を領有したか？：オゲデイの挑戦からクビライの継承へ」や学会発表「モンゴル帝国の拡大と対外政策：転機とその背景」「モンゴル帝国の拡大と対外政策：転機とその背景」として成果を公表した。さらに議論を深化させ、論文としてまとめる予定である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計7件)

船田善之，于磊（訳），蒙古諸王、道士、地方官員：蒙古時代華北社会的命令文書及其立碑意義探索，中国古代法律文献研究，査読有，第11輯，2017，314-337

船田善之，申斌（訳），蒙元時代的公文書史料：原文書と集成文書之間，中国史研究動態，査読有，2017年第3期（総第425期），2017，38-41

<http://kns.cnki.net/kcms/detail/detail.aspx?dbcode=CJFD&filename=ZGST201705009&dbname=CJFDLAST2017>

船田善之，モンゴル帝国勃興の鍵に迫る一冊：白石典之編『チンギス・カンとその時代』，東方，査読無，第423号，2016，24-28

<https://www.toho-shoten.co.jp/export/sites/default/review/423/toho423-02.pdf>

船田善之，孟津河渡司から沿海万户府へ：ある水軍指揮官の履歴からみたモンゴル帝国の水運と戦争，史淵，査読無，第153輯，2016，1-30  
DOI: 10.15017/1650928

船田善之，于磊（訳），從元日外交文書来看大蒙古国公文制度：与碑刻文書之比較研究，元史及民族与边疆研究集刊，査読有，第30輯，2015，31-44  
<http://kns.cnki.net/kcms/detail/detail.aspx?dbcode=CJFD&filename=YSMZ201502005&dbname=CJFDTEMN>

船田善之，モンゴル（Mongol）帝国（大元）の華北投下領研究，中国史学，査読有，第24巻，2014，139-156

船田善之，モンゴル時代華北地域社会における命令文とその刻石の意義：ダリタイ家の活動とその投下領における全真教の事業，東洋史研究，査読有，第73巻第1号，2014，35-66  
DOI: 10.14989/226270

〔学会発表〕(計17件)

船田善之，モンゴル帝国はなぜ農耕地帯を領有したか？：オゲデイの挑戦からクビライの継承へ，九州・シルクロード協会2017年度第5回交流会，2017

船田善之，モンゴル帝国の拡大と対外政策：転機とその背景，2017年度広島史学研究会大会シンポジウム「モンゴル帝国と日本・ユーラシア南方海域」，2017

FUNADA, Yoshiyuki，“New Linkages beyond North and South China Boundary during the Jurchen / Song - Mongol Transition: The Mongol - Song War, Emerging Military Commanders, and Bridges,” Second Conference on Middle Period Chinese Humanities, 2017.

FUNADA, Yoshiyuki，“The Mongol Impact, Emerging Military Officers,

and New Linkages beyond the Boundary between the North and the South China,” AAS-in-Asia Conference 2017 Asia in Motion: Beyond Borders and Boundaries, 2017.

船田善之, モンゴル時代漢語文書史料について: 機能・形態を中心として, ワークショップ「元代史料と江南研究: 洪金富先生をお招きして」, 2017

船田善之, モンゴルの征服と統治: 遊牧国家から世界帝国への変貌?, 日本中東学会第33回年次大会, 2017

FUNADA, Yoshiyuki, “Did Mongolian Language Affect Chinese Language? Focusing on the “Literal Translation Style” Used in Translating Mongolian Documents into Chinese under Mongol Rule,” Intralingual Translation, Diglossia and the Rise of Vernaculars in East Asian Classical and Premodern Cultures, 2017.

船田善之, 蒙古諸王、道士、地方官員: 蒙古時代華北社会的命令文書及其立碑意義探索, “銘刻文献所見古代法律和社会” 學術研討会, 2016

船田善之, 察合台之活動以及其分地: 蒙古帝国与華北社会之間, 中国政法大学校級重点学科“歴史文献学” 校級交叉学科“法律文献学” 課程建設系列講座, 2016

船田善之, 蒙古帝国の世界戦略与軍事戦略, 西華師大講壇第210期講座, 2016

船田善之, 蒙宋襄樊包圍戦与其軍事拠点, 宋元四川戦争中の神臂城高峰学术交流会, 2015

船田善之, 從《東仙洞記》来看察合台之活動及其封地: 蒙古帝国初期太原社会, 陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院學術講座, 2014

船田善之, チャガタイの活動とその太原投下領: モンゴル帝国初期の統治層と華北, 七隈史学会第16回大会第二部会, 2014

船田善之, モンゴル帝国の構造と統治理念, 第10回九州大学歴史学・歴史教育セミナー, 2014

船田善之, 從元日外交文書来看大蒙古国公文制度: 与碑刻文書之比較研究, 中国歴代涉海碑刻學術研討会, 2014

船田善之, 蒙文直訳体与漢児言語之間: 公文書之処理与伝達, 元白話与近代漢語研究国際學術研討会, 2014

FUNADA, Yoshiyuki, “Mongol Princes, Taoist Priests, and Local Officials: The Significance of Inscribing Edicts in North China Local Societies during the Mongol Period,” Conference on Middle Period China, 800-1400, 2014.

〔図書〕(計1件)

Jun'ichi Yoshida, Yasuhiro Yokkaichi, Yoshiyuki Funada, Tsuneaki Akasaka, Sanae Takagi, Takumi Nagai, Hiroki Oka, Makoto Tachibana, Hitoshi Kuribayashi, and Kazuyuki Okada, 共著 (Jun'ichi Yoshida, ed., O. Oyunjargal, tr.), National University of Mongolia, *Yapony Mongol Sodralyn Tüux (History of Mongolian Studies in Japan)*, 2015, 17-26, 36-40, 47-78, 106-124

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

船田 善之 (FUNADA, Yoshiyuki)  
広島大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号: 50404041

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

井黒 忍 (IGURO, Shinobu)